

小・中学生の保護者を対象とした家庭教育に関するアンケート調査

広島県立生涯学習センター

1 調査の概要

(1) 調査の目的

これまでの本県における家庭教育支援の取組を見つめ直し、学童期以降の家庭教育支援事業の企画・立案に活用することを目的とし、県内の小・中学生の保護者を対象に、家庭教育の状況や必要としている支援の内容等を調査した。

なお、当該調査に係る集計結果については、市町の家庭教育支援担当課に情報提供する。

(2) 調査の内容

学童期以降の保護者の学びへの支援に重点を置いた質問を設定した。

調査回答者の属性	基本情報
家庭教育の状況	家庭教育において大切にしていること
	子育てにおける相談相手
学びの機会の利用	家庭教育への支援の希望内容
	家庭教育に関する講座・研修会について（参加状況、参加しやすくなるための工夫）
	親プロ講座の認知及び参加状況、希望する学習内容
家庭以外とのつながり	子供を通じた学校、地域との関わりの状況
	家庭教育に関する情報の入手方法
自由記述	教材化につながる話し合いのテーマ（保護者同士、親子）

(3) 調査の設計

ア 調査地域	広島県全域
イ 調査対象	県内居住の小学生、中学生を持つ保護者
ウ サンプル予定数	1,000名
エ 抽出方法	対象者の作為抽出等は実施せず、広島県PTA連合会を通じて回答依頼
オ 調査主体	広島県立生涯学習センター
カ 調査方法	電子回答（広島県電子申請システムアンケートフォームへの各自回答）
キ 調査時期	令和4年9月から令和4年11月まで

2 回答の結果

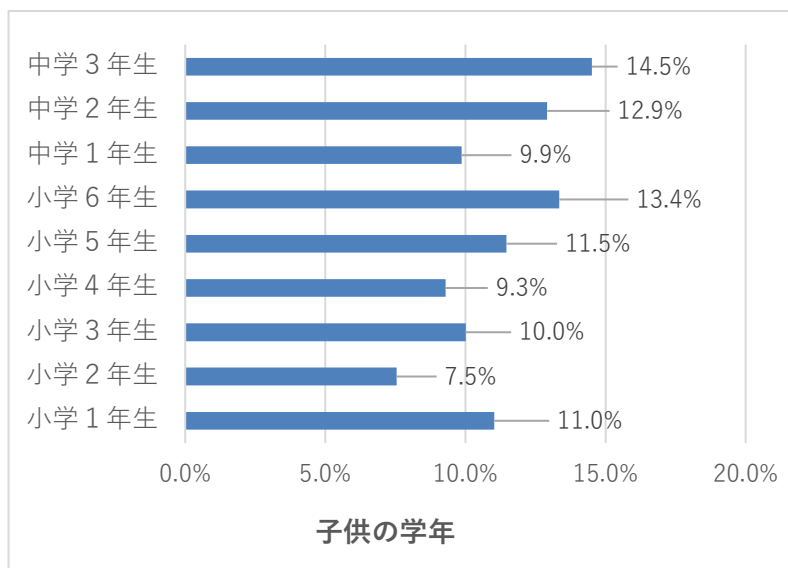
サンプル予定数	1,000名（100%）	実回収総数	689名（68.9%）
		有効回収数	689名（68.9%）
		無効数	0名（0.0%）

3 集計結果の見方

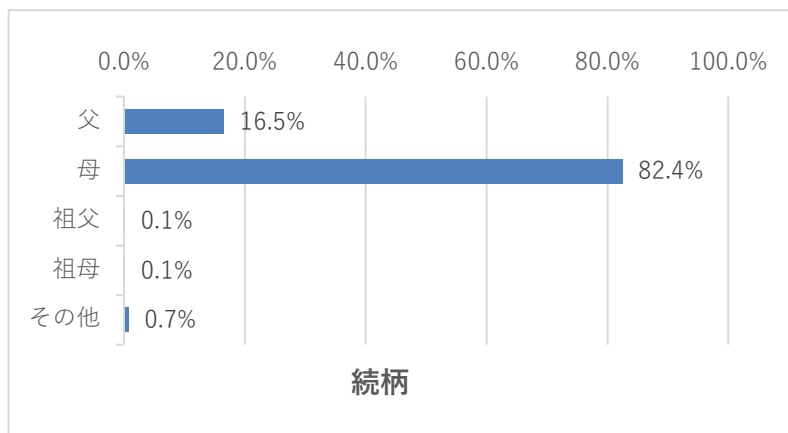
- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したため、パーセントの合計が100%にならないこともある。
- (2) 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答票数（複数回答の総数）とし、その項目を選択した者が全体から見て何%なのかという見方をした。そのため、各項目の比率を合計しても100%とはならない。
- (3) 本集計結果の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合がある。

(1) 基本情報

ア 子供（長子）の学年



イ 子供との続柄



(2) 家庭教育において大切にしていること（心がけ）について

(上位5項目を複数回答)

ア 基本的な生活習慣を身に付ける	79.4%
イ 社会性やマナーを身に付ける	75.8%
ウ 子供の話をよく聴き、コミュニケーションをはかる	61.8%
エ 親子で一緒に家事や行事を楽しむ	37.2%
オ 子供と一緒に読書する（読み聞かせを含む）	7.4%
カ 子供を文化施設や文化行事に連れていく	9.7%
キ 子供と一緒にスポーツをする	17.0%
ク 子供と自然の中で遊ぶなど、自然体験をする	25.5%
ケ 子供の興味・関心を広げられるような声掛けをする	30.6%
コ 子供の家庭での学習を見る	24.7%
サ 子供が自分で考え、気付けるようにする	40.8%
シ 様々な人との交流の機会をもつようにする	18.6%
ス 子供の成長を見守り、応援し励ます	50.2%
回答なし	0.1%

「基本的な生活習慣を身に付ける」「社会性やマナーを身に付ける」と回答した割合は、約8割であった。

(3) 子育てにおける相談相手について

(上位3項目を複数回答)

ア 配偶者・パートナー	80.6%
イ あなたや配偶者・パートナーの親	50.7%
ウ あなたや配偶者・パートナーの兄弟姉妹や親戚	20.2%
エ 子育てしている保護者仲間	55.2%
オ 子育て経験のある友人・知人	33.4%
カ 学校の先生	15.2%
キ 子育てや家庭教育に関する専門的知識を持っている人	7.3%
ク 行政などの公的な相談機関	3.5%
ケ インターネットなどの相談サイト	4.2%
コ その他	2.2%
サ 相談しない	2.9%
回答なし	0.4%

「配偶者・パートナー」に相談する割合が80%を超え、50%近くの者が「自身や配偶者・パートナーの親」「子育てをしている保護者仲間」に相談している。

【資料1】その他の主な記述

- ・同僚
- ・相談できる人がいない
- ・歳の離れた子供たち
- ・今は亡き父の育て方
- ・小児科医
- ・本や関連情報を調べる

(4) 家庭教育への支援の希望内容について

(上位3項目を複数回答)

ア 親の役割やしつけの仕方などを学ぶ学習会	22.5%
イ 子供との体験や交流を取り入れた学習会	47.2%
ウ 子供の家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会	29.8%
エ 子育て中の親と親しくなれる場や機会	13.1%
オ 地域の人と親しくなれる場や機会	13.5%
カ 身近で気軽に相談できる場や機会	20.0%
キ 多世代で交流できる場や機会	12.6%
ク 子育て経験のある人や専門家に気軽に相談できる場や機会	16.0%
ケ 子育てや家庭教育についての情報	22.9%
コ 子供が安全安心に過ごせる場所	48.2%
サ 子供を預かってくれる場所	11.8%
シ その他	1.7%
ス 特にない	7.0%

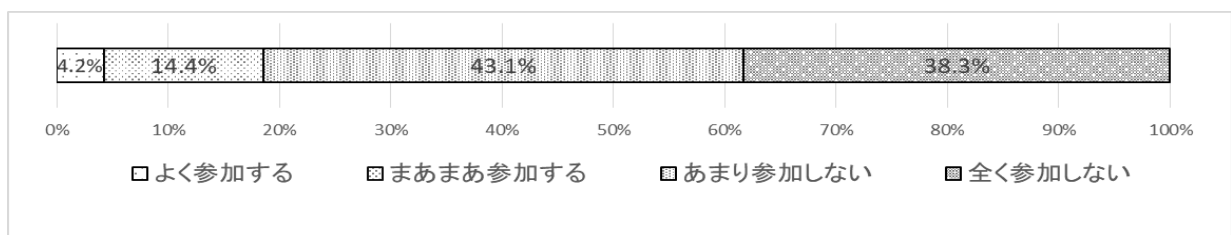
「子供との体験や交流を取り入れた学習会」「子供が安全安心に過ごせる場所」は、それぞれ50%に近い回答となった。

【資料2】 その他の主な記述

- ・ 各種教育サービスの無償化 ・ 子どもとの時間が増やせるような会社の体制 ・ 学習支援
- ・ 年齢に合わせた情報 ・ 子供が逃げる事ができる場所の提供 ・ 障害児を支援してくれる場所
- ・ 習い事などの金銭的サポート ・ 子供と一緒に過ごせる時間、場所 ・ 性教育に関すること
- ・ 子育てに関する講習会、講演会 ・ 行政からの金銭的支援 ・ 子供と共に学べる環境

(5) 家庭教育（子育て）に関する学習会への参加について

	合計	内訳（人）		
		父	母	その他
ア よく参加する	29人	10	18	1
イ まあまあ参加する	99人	18	80	2
ウ あまり参加しない	297人	45	248	4
エ 全く参加しない	264人	41	222	1



「よく参加する」「まあまあ参加する」を合計した割合が全体の18.6%となった。

ア 参加したことがある子育て支援・家庭教育支援の取組について

(複数回答)

ア 学校での子育てに関する講演会	35.4%
イ 学校での子育てに関する体験学習やワークショップなど保護者が主体的に参加する学習会	4.3%
ウ 学校での子育てに関する相談会	4.3%
エ 学校だよりや学校のホームページ	26.8%
オ 学校外の施設（公民館，図書館，児童館など）での子育てに関する講演会	8.9%
カ 学校外の施設（公民館，図書館，児童館など）での子育てに関する体験学習やワークショップなど保護者が主体的に参加する学習会	7.3%
キ 学校外の施設（公民館，図書館，児童館など）での子育てに関する相談会	5.0%
ク 子育てに関するシンポジウム，セミナー等	8.0%
ケ 子育てに関するシンポジウム，セミナー等（講座より規模が大きいもの）	0.0%

「学校での子育てに関する講演会」「学校だよりや学校のホームページ」が、それぞれ30%前後の回答になった。

イ (※参加したことがある人のみ) 参加して良かったことについて

(上位3項目を複数回答)

ア 悩みや不安，孤立感が軽減した	20.7%
イ 家庭教育の大切さを認識できた	35.0%
ウ しつけの仕方や子供との関わり方など必要な知識が得られた	33.9%
エ 子供の気持ちを理解することができた	24.4%
オ 子育て中の仲間と知り合うことができた	16.0%
カ 悩んでいることの解決方法を見出せた	15.3%
キ 講師や専門家などが相談に応じてくれた	9.5%
ク その他	1.9%
ケ 良かったと思うことはない	5.6%

参加したことがあると回答した者の約3割が、参加して良かったこととして「家庭教育の大切さを認識できた」「しつけの仕方や子供との関わり方など必要な知識が得られた」と回答した。

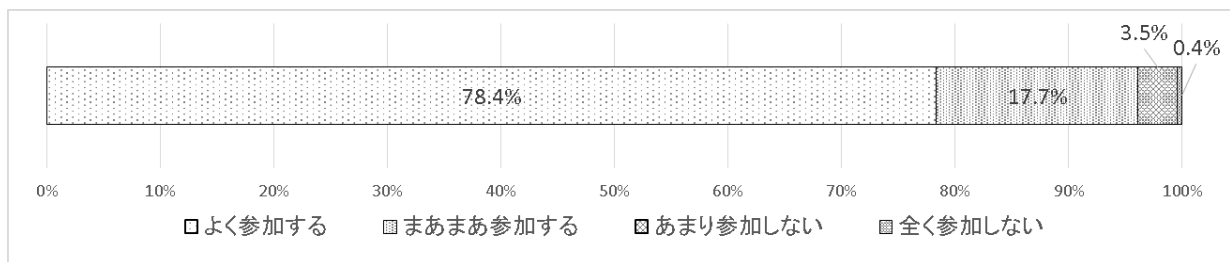
【資料3】 その他の主な記述

- ・自分の思考以外の事を知れてそれでいいのかとほっとしたことがある
- ・親としての姿勢
- ・学校生活を少し知ることができた
- ・食事の大切さについていい話が聞けた
- ・学校で何をしているのかが把握できる
- ・新しい価値観との出会いがあった
- ・個人差があるため，すごく納得したという訳ではなかった
- ・多様な考え方やアプローチがあることを知り興味が広がった

(6) 子供を通じた学校，地域との関わりの参加状況

ア 授業参観や学校行事（運動会 他）

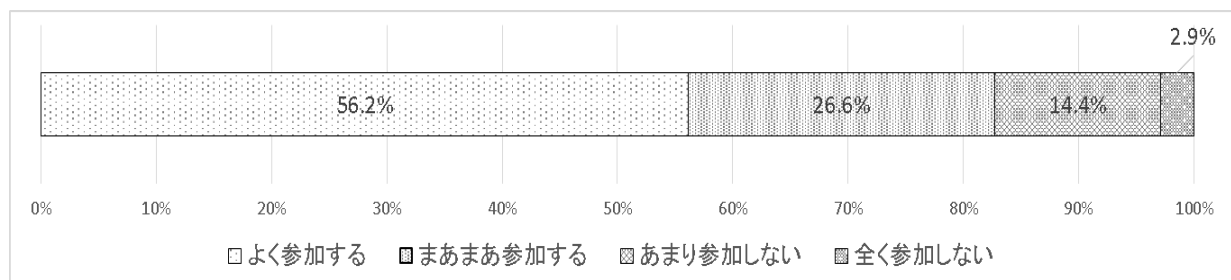
	合計	内訳（人）		
		父	母	その他
ア よく参加する	540 人	66	471	3
イ まあまあ参加する	122 人	36	83	3
ウ あまり参加しない	24 人	11	12	1
エ 全く参加しない	3 人	1	2	0



「よく参加する（540人）」「まあまあ参加する（122人）」の回答率は、96.1%となっている。

イ PTA 活動(PTC 活動含む)や保護者懇談会など

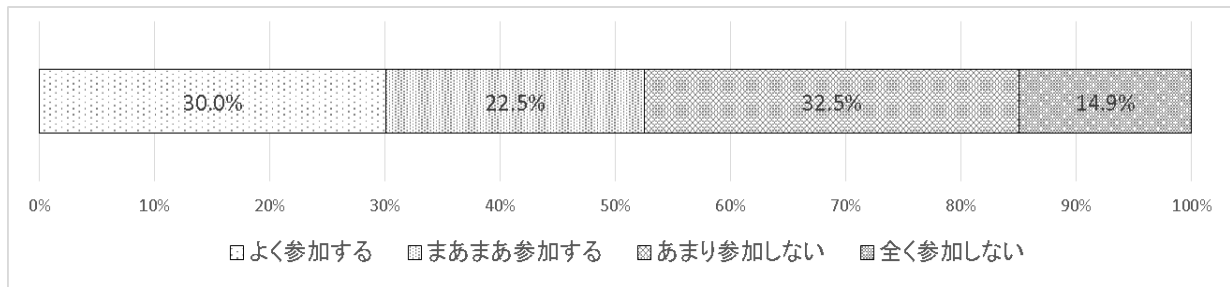
	合計	内訳（人）		
		父	母	その他
ア よく参加する	387 人	64	320	3
イ まあまあ参加する	183 人	29	152	2
ウ あまり参加しない	99 人	15	82	2
エ 全く参加しない	20 人	6	14	0



「よく参加する（387人）」「まあまあ参加する（183人）」の回答率は、82.8%となっている。

ウ 学校支援など、地域と学校の連携・協働に関わる活動へのボランティア

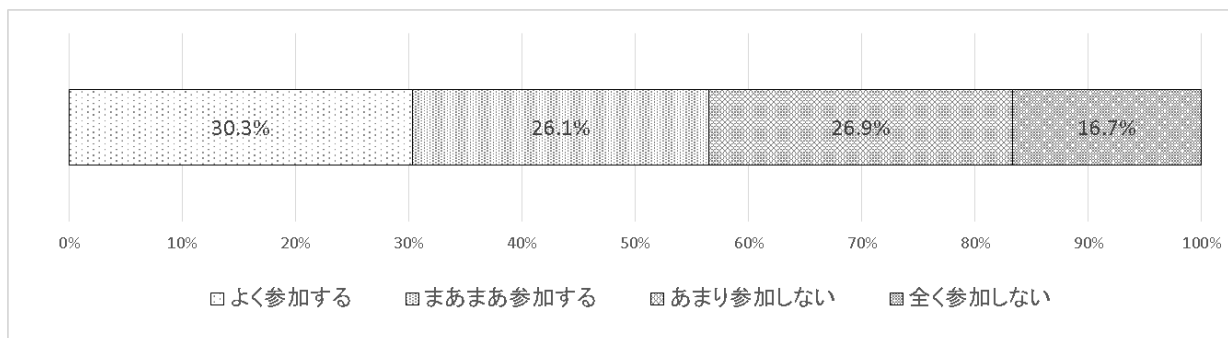
	合計	内訳（人）		
		父	母	その他
ア よく参加する	207 人	50	155	2
イ まあまあ参加する	155 人	24	129	2
ウ あまり参加しない	224 人	26	195	3
エ 全く参加しない	103 人	14	89	0



「よく参加する（207人）」「まあまあ参加する（155人）」の回答率は、52.5%となっている。

エ 自治会、子供会、子供と地域で一緒に行う体験活動（生活・文化体験、自然体験、社会体験）

	合計	内訳（人）		
		父	母	その他
ア よく参加する	209 人	49	158	2
イ まあまあ参加する	180 人	25	152	3
ウ あまり参加しない	185 人	25	158	2
エ 全く参加しない	115 人	15	100	0



「よく参加する（209人）」「まあまあ参加する（180人）」の回答率は、56.4%となっている。

(7) 情報の入手方法について

(上位3項目を複数回答)

ア 行政が発行・発信している情報（広報誌，リーフレット，HP，SNSなど）	23.1%
イ 子育て仲間	13.8%
ウ 家族・親族	5.6%
エ 友人・知人・近所に住む方	10.2%
オ 書籍	1.0%
カ テレビ・雑誌・新聞・ラジオ	4.7%
キ インターネットやSNS	13.6%
ク 学校からの情報（学校だより，HPなど）	25.8%
ケ 保護者向け講座・学習会	1.6%
コ その他	0.4%
サ 信頼できる情報は得られない	0.2%

情報の入手方法は、学校だより等の「学校からの情報」や広報誌等の「行政が発行・発信している情報」が多かった。

【資料4】 その他の記述

・公民館 ・教育委員会 ・職場 ・地域の広報や掲示版 ・PTA活動 ・そもそも活動自体がない

(8) 保護者同士・親子同士で、話し合いたい話題・テーマ等（自由記述）

※自由記述については、当センターで分類

1. 保護者同士で（上位5項目）

	保護者同士で
しつけ・家庭生活	29
コミュニケーション	29
スマホ・ゲーム・SNS	21
子育ての交流・相談	18
家庭学習	14
命や性に関すること	13

2. 親子同士で（上位5項目）

	親子同士で
様々な体験・交流学习	31
コミュニケーション	26
スマホ・ゲーム・SNS	20
子供の進路・将来	11
しつけ・家庭生活	10
命や性に関すること	10

【資料5】主な自由記述

1. 保護者同士で

【しつけ・家庭生活】

- ・家庭内のルール、しつけについて
- ・生活リズムの作り方
- ・宿題の習慣付け方等について
- ・お小遣い・お金の使い方等について
- ・コロナ禍での家庭の過ごし方
- ・年齢・学年に応じた親の関わり方
- ・子供が悪いことをしたときの解決方法（誉めて育てられるのか、叱ったら虐待か） など

【コミュニケーション】

- ・子供との関わり方、子供の心をつかんだ言葉かけ
- ・やる気になれる対応の仕方
- ・保護者が言うことを子供が聞き入れてくれない
- ・コミュニケーションの頻度、年代別の干渉の程度
- ・思春期や反抗期期間の子供への接し方や声のかけ方 など

【スマホ・ゲーム・SNS について】

- ・ スマホやゲームのルール（年齢や時間）
- ・ SNS などのルール
- ・ 情報がネットで探せる環境下での教育支援の要否
- ・ ネットとの付き合い方
- ・ 依存症の恐ろしさ

など

【子育ての交流・相談】

- ・ 息抜きの仕方
- ・ 子育てで大切にされていること，大切にすべきこと等
- ・ 子供の成長過程での悩みの共有
- ・ 学校からの連絡で，どう対処したら良いか気軽に相談出来る場所が欲しい
- ・ 課題の解決方法でうまくいった例，失敗した例

など

【家庭学習】

- ・ 学習時間・就寝時間の確保
- ・ 塾に関しての情報交換
- ・ 勉強への興味を持たせることが出来るのか
- ・ ICT を活用した教育について，家庭でのサポートや親の理解はどのようにしていくべきか
- ・ 自宅での宿題の進め方，自宅学習の進め方

など

【命や性に関すること】

- ・ 性教育に関すること
- ・ 子供たちに性教育の大切さの伝え方
- ・ ジェンダー，LGBT について

など

2. 親子同士で

【様々な体験・交流学習】

- ・ 工作・スポーツ・プログラミング・料理等，一緒に体験できる場がほしい
- ・ 学校教育ではできないようなダイナミックな自然体験・地元の環境保全活動等
- ・ 親子ではなく，子供同士の異学年交流の場(ワークショップや相談など)がほしい
- ・ 1 家族じゃできないこともみんなで協力すれば大概のことはできるので，親子共々，色々な経験ができる行事を増やしたい
- ・ 地域の事や地域で、親子で出来る地域資源の活用法

など

【コミュニケーション】

- ・学校のことについて、普段、子供から聞いている事や不満を伝える場
- ・触れ合えるコミュニケーションの力を高め合える方法や場所
- ・親の気持ちと子供の気持ち
- ・親子のコミュニケーションの取り方→双方に友好的な言い方などの具体的な方法
- ・相手を知ることができる遊び

など

【スマホ・ゲーム・SNS】

- ・インターネット・ゲーム・SNS・スマホとの関わり方、ルール
- ・端末機器を使う事のメリットとデメリット等
- ・ゲームやスマホの時間等
- ・携帯を持たせるかどうか
- ・SNS投稿の怖さについて
- ・インターネットでの学習とかITの時代をどのように切り開くか

など

【子供の進路・将来】

- ・将来の夢があるかどうか
- ・子どもの夢や将来への希望への寄り添い方、ともに歩む姿勢
- ・進学について、何を・いつから勉強させるのか、本人のために何を言ってあげたら良いか
- ・夢を実現するための手段、方法、取組
- ・職場体験や学校紹介や趣味など、将来につながるヒントになる何か

など

【しつけ・家庭生活】

- ・多様性について考え方の違いなど、自主性・主体性について自分で考え・行動するなど
- ・家庭内のルール
- ・留守番の方法や、危険な目にあつたことがないか
- ・家でどのように過ごしているか

など

【命や性に関すること】

- ・性教育に関すること
- ・生きている事の大切さ
- ・多様性などについての考え方、ジェンダーレスの考え方
- ・性について等を含め、自分の身体と向き合う機会
- ・命に向き合う機会（人、動物、植物…などテーマは様々）

など

3 まとめ

(1) 家庭教育において大切にしていること（心がけ）

「基本的な生活習慣を身に付ける」(79.4%)、「社会性やマナーを身に付ける」(75.8%)への回答がともに高い割合であったが、それについて、「子供の話をよく聴き、コミュニケーションをはかる」(61.8%)「子供の成長を見守り、応援し励ます」(50.2%)「子供が自分で考え、気づけるようにする」(40.8%)が高かった。家庭において子供の主体性を大切にしている保護者の状況がうかがえる。

(2) 家庭教育への支援の希望内容、家庭教育に関する講座・研修会について

家庭教育への支援の希望内容では、「子供が安全安心に過ごせる居場所」(48.2%)、「子供との体験や交流を取り入れた学習会」(47.2%)が上位であり、子供の居場所づくりや親子で学習する機会が求められている。

また、家庭教育（子育て）に関する学習会への積極的な参加の割合は18.6%である。参加したことのある子育て支援・家庭教育支援の取組については、学校での子育てに関する講演会が最も高く、学校外での施設や子育てに関するシンポジウム、セミナー等への参加は学校における学習会に比べると低い。

(3) 子供を通じた学校、地域との関わりの状況について

学校や地域の行事等に関して、積極的な参加の割合が、「授業参観や学校行事」(96.1%)、「PTA活動や保護者懇談会」(82.7%)と高い割合であるのに対し、「学校支援など、地域と学校の連携・協働に関わる活動へのボランティア」(52.5%)、「自治会、子供会、子供と地域で一緒に行う体験活動」(56.5%)と低下しており、子供が通う学校での活動への参加率が高い傾向であることがうかがえる。

また、家庭教育に関する情報の入手方法についても、「学校からの情報」(25.8%)が最も高かった。

(4) 教材化につながる話し合いのテーマ（保護者同士、親子同士）について

話し合いのテーマについては、保護者同士・親子同士の共に、「しつけ・家庭生活」「コミュニケーション」「スマホ・ゲーム・SNS」「命や性に関すること」に関するが多かった。家庭におけるライフスタイルの変化により、子供の気持ちや状況がわからず、子供にどう接したらよいかなどに悩む保護者が多いことがうかがえる。また、親子同士では「様々な体験・交流学习」が最も多く、親子で参加できる学びの場を地域に求めていることがうかがえる。